

平成二十三年度入学試験問題（後期日程）

小論文

法文学部 総合社会システム学科（昼間主コース・夜間主コース）

注意事項

- 一、 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、 解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、 解答時間は、一二〇分である。
- 五、 縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の二つの文章は、医療事故に関する現状の報告です。医療過誤が生じる原因について両者がどのように考えているかを簡潔に要約した上で、社会全体の中で医療がどのようなようにあるべきなのか、課題文をふまえてあなたが考えることを論じなさい。なお、課題文（1）の筆者は医療訴訟を専門とする弁護士、（2）の筆者は医学部助教授を経て東京都内の大病院で幹部を務める現役医師である。

解答は、全体で八〇〇字以上、一二〇〇字以内でまとめなさい。

課題文（1）

非公開

(貞友義典、『リピーター医師 なぜミスを繰り返すのか?』、光文社新書、二〇〇五年、一二二～一二五ページ)

非公開

課題文(2)

(小松秀樹、『医療の限界』、新潮新書、二〇〇七年、四五〜四七ページ、抜粋・一部改変)

【本文注】

- ① 医局：…大学病院における診療・教育・研究を同時に行う組織単位のこと。診療科単位（例えば心臓外科や血液内科、産婦人科といったユニット）で構成され、大学病院での治療を行うほか、その学外の系列病院に医師を派遣する役割も有していることが多い。
- ② リピーター医師：…自らの過失による医療事故を繰り返す医師のこと。
- ③ 刑事：…個人間の契約や財産、人間関係に関する争いを「民事」と呼ぶのに対して、社会全体で定めた規律を守らないこと（＝犯罪）に対して国家が刑罰を与える手続きを指す。

平成二十三年度入学試験問題（後期日程）

小論文

法文学部 総合社会システム学科（昼間主コース・夜間主コース）

出題の意図

大学進学後に社会科学の学習を深めるためには、対立する（ように見える）論を同時に受け入れた上で、それぞれの立場は何をポイントにしているのか、どういうことを前提にして主張を展開しているのか理解する必要がある。

昨今、日本の医療が困難に直面していることが報道されている。後期日程で総合社会システム学科に入学を志望する諸君には、こうしたテーマについて一応の関心を持ってもらいたいので、このテーマに関連する出題を行った。他方、医療の専門的知識を問うているのではないので、与えられた文章を手がかりに、医療問題の構造を自分なりに展開し、しっかりした根拠を元に自説を展開できるかどうか重要である。

課題文は、それぞれの立場で専門性を持ち、深い洞察力を有する筆者が書いており、そのいずれも説得力がある。仮にどちらかの立場に立つ場合も、他方の説得力を充分踏まえた上で立論する必要がある。また両者の言い分は両立するかもしれないが、その際にも両者の根本的な共通点を探り出した上で、両論をまとめることを期待している。そうした力量は、入学後における法律学・経済学・政治学の深化と密接に関連している。